

『高大連携』から『高大接続』へ ～質の高い学びに向けて～

平成30年11月11日

大阪府立懐風館高等学校

校長 柴 浩司

メールアドレス T-ShibaKo@medu.pref.osaka.jp

自己紹介

- ◆ 昭和60年度 数学科教諭として大阪府立高校に採用
- ◆ 平成18年度 教育委員会事務局
教育振興室 高等学校課（教務グループ） 指導主事

教務グループ担当業務 ⇒ 学習指導要領に関わる業務
進学指導特化事業（のちの文理学科設置）
英語教育・理数教育（SSH含む）・高大連携など
- ◆ 平成27年度 大阪府立大手前高等学校 校長
大阪府学習研究会会長（27～29年度）
- ◆ 平成30年度 大阪府立懐風館高等学校 校長
大阪府立高等学校教務研究会会長
大阪府立高等学校校長協会教育課程委員会委員長

自己紹介

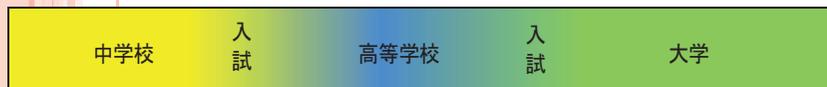
講演・研修等

- 大阪大学 化学教育セミナー（平成27年度）
- 第19回 京都大学全学教育シンポジウム（平成27年度）
- 近畿地区大学教育研究会第 84回研究協議会（平成27年度）
- 第3回 関西学院大学高大接続セミナー（平成28年度）
- 大阪私学教員研修会（平成28年度）
- 愛知県教育旅行における航空機利用促進事業報告会（平成28年度）
- 第13回教育旅行シンポジウム（平成29年度）
- 大阪大学入試セミナー（平成29年度）

『高大連携』から『高大接続』へ ～大阪府立大手前高校の取組みから～

- 1 中学校 → 高等学校 → 大学
 - ① 中学校と高等学校の接続
平成28年度以降の大阪府公立高校入学者選抜改革
 - ② 高等学校と大学の接続
- 2 高大接続の取組み
 - ① 課題研究の充実
 - ② 国際教育と英語4技能向上の取組み
 - ③ SEEDSなどGSCの活用
- 3 大学教育と入学者選抜に期待すること

1 中学校 → 高等学校 → 大学



- 各段階の教育の接続はリレーゾーン
- 入試を「点」でなく「線」で捉える

1 ①中学校と高等学校の接続

平成28年度以降の大阪府公立高校入学者選抜

入試改革のポイント

- 入試日程の原則1本化
- 中学校3か年の調査書を選抜資料に
- 調査書の様式変更（「活動/行動の記録」を新設）
- 全員が自己申告書を提出
- 英語資格取得者の点数読み替え（29年度より）
- ボーダーゾーンでアドミッションポリシーにより合否決定

1 ①中学校と高等学校の接続

平成28年度以降の大阪府公立高校入学者選抜

- 英語資格取得者点数読み替え率（平成29年度入試より導入）

	TOEFL iBT	IELTS	英検	読替率
大阪府 公立学校 入学者 選抜	60点	6	準1級	100%
	50点	5.5	—	90%
英語	40点	5	2級	80%

1 ①中学校と高等学校の接続

平成28年度以降の大阪府公立高校入学者選抜

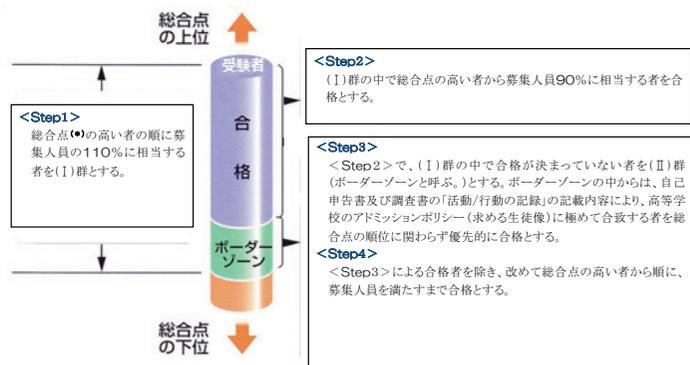
- 英語資格取得者の受験者数

読替率	H29年度	H30年度	H31年度
100%	27名	29名	?
90%	3名	1名	?
80%	315名	608名	?
	345名	638名	?

1 ①中学校と高等学校の接続

平成28年度以降の大阪府公立高校入学者選抜

□ボーダーゾーンでアドミッションポリシーに合致する生徒を優先的に合格！



1 ①中学校と高等学校の接続

平成28年度以降の大阪府公立高校入学者選抜

大手前高校のアドミッションポリシー

- 本校の理念
本校は、国際社会で活躍できるグローバル・リーダーの育成をめざし、「つよき信念(まこと)」「たかき理想(のぞみ)」の精神のもと、自然科学、社会科学、人文科学の各領域において、先進的な教育に取り組んでいます。今後も更なる飛躍を図り、地球規模の困難でかつ複雑な課題に挑戦する人材を育成し、人類社会の発展に大きく貢献します。
- 本校が求める生徒像
- (1) 旺盛な探究心を持ち、数学的リテラシー、読解力、英語運用能力、科学的リテラシー等を高めることはもとより、すべての教育活動に積極的に取り組みたい生徒
 - (2) 身につけた教養や高めた能力を社会のために生かし、よりよい社会をつくっていかうとする高い社会貢献意識をもつ生徒
 - (3) 「地球の構成員」として、互いの個性を認め、異なる文化や歴史を尊重できる豊かな感性や、たくましく生きるための力を身につけたい生徒

1 ①中学校と高等学校の接続

平成28年度以降の大阪府公立高校入学者選抜

□ボーダーゾーンで「アドミッションポリシーに極めて合致し、優先的に合格(AP合格)」とした人数

読替率	H28年度	H29年度	H30年度
AP合格者数	722名	502名	444名
全合格者数	38,339名	37,067名	34,972名

「尖った生徒」が増えた！

- ・中学校の時から、SEEDSプログラムに参加していた。⇒ 理化学研究部で活躍
- ・情報処理技術資格を最年少で合格した ⇒ 情報オリンピック代表候補
- ・英語準一級、IELTS5.5など高い英語能力を持つ ⇒ トビタテ留学JAPAN 海外大学受験予定

同級生への刺激、切磋琢磨、知的意識レベル向上

1 ①中学校と高等学校の接続

平成28年度以降の大阪府公立高校入学者選抜

アドミッションポリシーに極めて合致する生徒を見極めるために

- ・学校説明会等への中学生への直接的な説明
 - 「対策」にならないように
 - 1、2年生への働きかけ
- ・体験授業・体験実習
 - 課題研究発表会での中学生への公開
 - 学校説明会での体験授業



1 ② 高等学校と大学の接続

進む大学入試改革

京都大学 大阪大学 東京大学

① 出願要件

- ・課題研究成果
- ・コンクール・コンテストの成果
- ・英語能力に関する資格取得 など

② 選考

- ・書類選考（アドミッションポリシーに基づく自己申告書）
- ・口頭試問（プレゼンテーション）
- ・センター試験得点率 など

2 高大接続の取組み

① 課題研究の充実

■大手前高校の例

平成5年度 理数科設置

⇒ 課題研究を開始

平成20年度 SSH指定

⇒ 系統的な課題研究開始

（「まこと」、「のぞみ」、「サイエンス探究」）

平成23年度 理数科を発展的解消し、文理学科を設置

⇒ テーマを自然科学、人文科学、社会科学の3領域に拡大

平成30年度 普通科を募集停止（設置学科は文理学科のみ）

⇒ すべての生徒が、課題研究を履修

2 高大接続の取組み

① 課題研究の充実

平成30年度 普通科を募集停止（設置学科は文理学科のみ）

⇒ すべての生徒が、課題研究を履修

課題は？

- > 課題研究の質を維持したい、レベルを維持できるのか？
- > 360人に対して、研究活動を指導できるのか？



- ・機会均等と、「選択と集中」
- ・学習指導要領の改訂
- ・これまでの研究ノウハウの全体化（市販の教材の充実してきた!!!）

2 高大接続の取組み

① 課題研究の充実（大手前高校の例）



学習指導要領の改訂
教科・科目は、
34年度（2022年度）から実施

総則、総合的な探究の時間などは
31年度から先行実施

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現
各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

どのように学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の
新設など
各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的
に示す

学習内容の削減は行わない※

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・
ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる
資質・能力を育成
知識の量を削減せず、質の高
い理解を図るための学習過程
の質的改善

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

※高校教育については、従来の事実的知識の増量が大学入学者数増で開かれることが課題になっており、
そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革を進める。

6

育成すべき資質・能力の三つの柱（案）

学びに向かう力
人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

すべての教科で探究的学習を！

- ◆ 知的好奇心、社会貢献意識、使命感を高めること
→ 第一線で活躍する方による講話
年齢の近い先輩等との対話
- ◆ 知識を実感すること
→ 実験・実習の充実
- ◆ 授業では定着をはかること
→ 個々の知識をつなげる授業

アクティブラーニング

学びの質や深まりを重視するために、課題の発見
と解決に向けて主体的、協働的に学ぶ学習

反転授業

2 ② 国際教育と英語4技能向上の取組み (GLHSの例)

- 難関大学を突破する英語力の保障
- グローバルリーダーが必要な4技能（読む・書く・聞く・話す）の育成
 - SET（スーパーイングリッシュティーチャー）による「話す」・「書く」能力の向上
 - 27or28年度よりTOEFL iBT教材を授業に導入
 - GTECなど外部検定・資格により、4技能を評価



2 ② 国際教育と英語4技能向上の取組み

- 資格取得者の増加
超高校級が・・・
- コンクール・コンテストに出場
- トビタテ留学JAPANにエントリー
- 進学先は海外大学！

2 ② 国際教育と英語4技能向上の取組み (大手前高校の例)

○ 主な海外派遣研修（H29年度）

研修名	場所	日程	募集
 オーストラリアサイエンス研修	メルボルン オーストラリア	7月（4泊6日）	30名
 シンガポール語学研修	シンガポール	12月（4泊6日）	60名
 英国交流事業	英国(ウェールズ)	7月（14泊15日）	10名
 アメリカグローバルリーダー研修	アメリカ (スタンフォード)	7月（6泊8日）	10名

○ 国際科学会議（H31.3）

中国（北京・上海）・韓国・タイ・オーストラリアの高校生を招待予定

2 ③ SEEDSなどGSC（グローバルサイエンスキャンプ）等の活用

- 大阪府立高校は、立地条件に恵まれている。
⇒大阪府教育厅と大学との包括連携協定締結は25大学
- 特にGLHS（グローバルリーダーハイスクール）は、京都大学、大阪大学と10校を対象にした覚書を交わしている
⇒独自行事（阪大ツアー、京大キャンパスガイド・・・）
- さらにSSN（サイエンススクールネットワーク）や教職コンソーシアムなど、目的ごとに個別大学との連携・接続プログラムを持つ。

2 ③ SEEDSなどGSC (グローバルサイエンスキャンプ) 等の活用

■SEEDSなどの活用

- 月2回、6か月間にわたって、大学で専門分野の講義、実験を行い、大学の教授等に研究指導を受け、成果を発表。

⇒ 大学入試に有利になることを目的として、参加する生徒はほとんどいない。

- 結果として、もう少し、研究をしたい。
- 総合的学力と高める。
- 学ぶ意味を感じて、頑張って入試を突破する

⇒ 入試が、「点」ではなく「リレーゾーン」になっている。

3 大学教育、入試改革に期待すること

高校では

- 「学ぶ意味」を見つけ、継続的に学習・研究へつなげる
- 最低限の「幅広い教養」を身につける
- チャレンジ精神、社会貢献意識、
「**こころを磨く**」「**身体を鍛える**」

3 大学教育、入試改革に期待すること

- ◆ 入試改革 一定の総合的な学力は必要だが
→ 「10%」は誤差!? グレーゾーンに挑戦を!

- ◆ 特色ある入試の導入に向けて、高校生への直接的なアプローチを!
→ オープンキャンパス、発表会、GSC など

ご静聴ありがとうございました